

1. テーマ「身近に自然を感じられるまちづくり」

2. まちの問題点

都心開発の進展により、鎮守の森などの森林伐採が進み、アスファルトやコンクリートに埋めつくされた空間が広がっており、ヒートアイランド現象や洪水などの都心問題が発生している。「日常で四季を感じられない。」「小動物を見ることもない。」といったように、身近に自然を感じられなくなっている。子供の遊び場としての公園にも、その機能はなく、2～3種類の道具と広場といった公園ばかりである。

3. 市民のニーズ

近年、市民のニーズとしては、物に対するニーズよりも自然、文化といった豊かさに対するニーズが高まっている。また、NPO等の活動の活発化により、子供が自分で創造して遊ぶ空間、自然とたわむれる空間づくりを、市民みずからが行ってほしいとする（アダプトプログラム）動きもある。

4. 視点

誰もが、いつでも、どこでも（ユビキタス）、身近に自然を感じられるまちづくりへの対策として、一定規模の公園に、小さな池があり小生態系が成立する、また、四季を感じられる小さな森（ビオトープ）を整備することを提案する。

